シードブック

子どもの健康と安全



野原八千代 編著

及川郁子・小櫃芳江・初鹿静江・八代陽子・山梨みほ 共著



はしがき

子どもをとりかこむ環境は複雑になっており、子どもの健康への影響は多大 です。経済の発展、医学の進歩、保護者の知識の向上などにより乳児死亡率は 低下し、感染症などは減少してきましたが、一方では乳幼児の死因の第一に不 慮の事故があげられています。社会は少子化、高齢化の時代を迎え、地球温暖 化などの自然環境の変化、科学の進歩は休みなく続いており、これらは子ども の生活環境に大きく影響し、子どもの生理機能や疾病構造にも変化をもたらし てきています。核家族化、女性の社会への進出も活発化し、家庭機能にも大き な変化が起こっており、地域社会として保育を考え、保育所などにおける集団 保育も充実させていくことが必要になっています。

このような変化の中で心身両面の健康の維持増進をどのようにはかっていく かということは保育の一つの課題です。保健という視点から保育の実際の場で 行われている対応は、子どもが生活する場の環境整備、保健計画にはじまり、 生活習慣の自立の援助、病気、けが、事故に対するものなど多岐にわたってい ます。より充実した保育の内容を繰り広げられれば必然的にこれらの対応技術 も育まれてきます。そこで保育者として理解し、身につけておく必要のある対 応技術をあらためてまとめてみました。

子どもの病気、事故などは発育の過程で起こるものであり、保育者は子ども の成長・発達を十分理解し、発育の援助や病気、事故の予防にあたって欲しい と思います。適切な「応急処置」は病気やけがの回復を早めるとともに子ども の不安を和らげ、長期的なこころの健康維持に役立つはずです。日常生活の中 で子どもの「異状や病気を早期に発見」するのは、子どもの一番身近なところ にいる家族であり、保育者であることを忘れてはならず、そのためには子ども の病気や発生しやすい事故について十分に知っておくこと、家族との連携を十 分に保つことが大切です。

本書『シードブック 子どもの健康と安全』は、これまで多くの保育者を目指す方々にお読み頂きました『子どもの保健演習セミナー』を、2019 年度からの保育士養成課程の改定に伴い、シードブックの一冊として書名を新たに新科目名とし、内容を刷新したものです。

2017年に保育所保育指針が改定され、子どもの健康および安全についての 視点が大きく変わってまいりました。保育者に求められる保育の知識や技術の 内容も大きく変わっています。

前著同様にご活用いただき、ご意見を頂戴できれば幸いでございます。

2019年9月

編者 野原八千代

もくじ



第 1 章 保育における健康と安全
1. 子どもの健康と安全
(1) 子どもの健康と安全をどうとらえるか 1
(2)「健康支援」について 2
(3)「安全管理」について 3
2. 保育における健康支援の基本的な考え方
第2章 おさえておきたい乳幼児の発育
1. 発育と成長・発達
2 . 乳幼児の身体発育 ϵ
(1)身体発育の指標 6
(2) 身体発育と健康状態 6
(3) 身体の測定 6
(4)身体発育の評価 9
(5)歯の発育 13
3. 乳幼児の発達
(1) 脳の構造と機能 15
(2) 感覚器の発達 17
(3)運動機能の発達 19
(4)精神発達 23
(5) 子どもの姿勢 25
4. 乳幼児の生理機能(からだの働き)とその発達 ····································
(1) 9 つの器官系 <i>25</i>
(2) 呼 吸 26
(3)循環 27

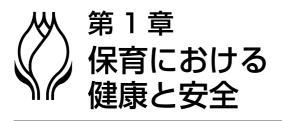
(4)	排 泄 28
(5)	からだを守るしくみ 30
5. 睡	眠とからだのリズム
(1)	早寝・早起きの重要性と体内時計 33
(2)	乳幼児期の睡眠の特徴 34
(3)	睡眠覚醒リズムとからだの機能 35
第3章	保健的観点からみた保育環境とその援助 ····································
1. 生	活の環境
(1)	面積,床の材質 37
(2)	室温・温度と冷暖房 37
(3)	照明, 騒音 38
2. 午	睡の大切さと午睡時の環境 ·······38
(1)	午睡(昼寝)の必要性 38
(2)	午睡時の環境 38
(3)	午睡時の乳幼児の見守り・事故防止 39
3. 健	康な生活を送るために
(1)	睡眠,朝食の大切さ 39
(2)	生活リズムの乱れ 40
(3)	体温調節の大切さ 40
(4)	乳児期からの脳機能 40
4. 子	どもたちへの健康支援
(1)	保育所等における個別の支援 41
(2)	集団への支援 42
5. 保	育所等の事故防止 ····································
(1)	プール活動・水遊びの事故防止 42
(2)	プール活動・水遊びの注意 42
6. 園	外保育 (散歩)
(1)	散 歩 43

(2) 前日の準備, 持ち物点検 43	
(3)計画 43	
(4) 当日の朝の確認 44	
(5) 持ち物 <i>44</i>	
(6)活動中の確認 44	
7. 子ども自らが身に付ける健康管理上の習慣づくり	······ 46
(1) 乳児~3歳未満児 46	
(2) 3歳以上児 46	
8. 子どもの健康を守るための取り組み	······ 47
(1) 子どもの健康を守るための保護者の意識 47	
(2) 保育所等での食事の配慮 47	
(3) 保育所等でのアレルギー児誤食の防止 47	
(4) 保育所等での緊急時のアレルギー児対応 48	
9. 保育所等の避難訓練	······ 48
10. 不審者対応訓練	49
第4章 保育における健康および安全管理の実際	51
1. 衛生管理	·····- 51
(1) 施設、設備の衛生管理(遊具、プール含む) 51	
(2) 保育の場面における衛生管理 55	
2. 事故防止と安全対策	58
(1) 生活と安全管理 59	
(2) 食と安全管理 67	
(3) リスクマネジメント 72	
(4) インシデント・アクシデント 74	
3. 事故発生の現状と予防	······ 76
(1)教育・保育施設等における事故の現状 76	
(2)さまざまな子どもの事故 79	
4. 危機管理	83

(1)	危機管理とは 83
(2)	危機管理の構成要素 84
5. 災	害への備え85
6. け	がの対応と応急処置87
(1)	創 傷(すり傷, 切り傷, 刺し傷) 87
(2)	打 撲 89
(3)	骨折,捻挫,脱臼,肘内障 91
(4)	やけど (火傷, 熱傷) 93
(5)	熱中症 <i>94</i>
(6)	誤飲・誤嚥 95
7. 応	急対応と救命蘇生法96
(1)	事故発生時の応急対応と基本的な流れ 96
(2)	重大な事故が起きた(心停止・呼吸停止)場合の救命蘇生法 96
(3)	AED 100
第5章	健康観察と体調不良に対する気付き102
	健康観察と体調不良に対する気付き
1. 平	
1. 平 (1)	常時の子どもの健康状態の観察と異状の早期発見102
1. 平 (1) (2)	常時の子どもの健康状態の観察と異状の早期発見 102 集団生活に向けての健康情報 102
1. 平 (1) (2) 2. よ	常時の子どもの健康状態の観察と異状の早期発見
1. 平 (1) (2) 2. よ (1)	常時の子どもの健康状態の観察と異状の早期発見
1. 平 (1) (2) 2. よ (1) (2)	常時の子どもの健康状態の観察と異状の早期発見
1. 平 (1) (2) 2. よ (1) (2) (3)	常時の子どもの健康状態の観察と異状の早期発見
1. 平 (1) (2) 2. よ (1) (2) (3) (4)	常時の子どもの健康状態の観察と異状の早期発見 102 集団生活に向けての健康情報 102 毎日の健康観察の実際 103 くみられる子どもの症状と対応 108 発 熱 110 食欲がない 111 眠りが浅い, 睡眠が確保できない 112
1. 平 (1) (2) 2. よ (1) (2) (3) (4) (5)	常時の子どもの健康状態の観察と異状の早期発見 102 集団生活に向けての健康情報 102 毎日の健康観察の実際 103 くみられる子どもの症状と対応 108 発 熱 110 食欲がない 111 眠りが浅い, 睡眠が確保できない 112 咳・呼吸困難 112
1. 平 (1) (2) 2. よ (1) (2) (3) (4) (5) (6)	常時の子どもの健康状態の観察と異状の早期発見 102 集団生活に向けての健康情報 102 毎日の健康観察の実際 103 くみられる子どもの症状と対応 108 発 熱 110 食欲がない 111 眠りが浅い, 睡眠が確保できない 112 咳・呼吸困難 112 嘔 吐 113
1. 平 (1) (2) 2. よ (1) (2) (3) (4) (5) (6) (7)	常時の子どもの健康状態の観察と異状の早期発見 102 集団生活に向けての健康情報 102 毎日の健康観察の実際 103 くみられる子どもの症状と対応 108 発 熱 110 食欲がない 111 眠りが浅い, 睡眠が確保できない 112 咳・呼吸困難 112 嘔 吐 113

	(10)	発	疹	118								
	(11)	けい	れん,	意識がな	iv 11	8						
	(12)	脱	水	120								
	3. 体	調不」	良時の	のケア …								121
	(1)	薬	121									
	(2)	浣	腸	125								
第	6章	感染	嘘σ)対策								126
	1. 感	染症に	につり	いての基準	本的知識	雀 ········				•••••	•••••	126
	(1)	感染	と感	染症 126	;							
	(2)	感染:	症発	生の三大要	長因と感	染予防対	策 12	7				
	2. 保	育所	等に	おける感	染症のう	予防と感	染症対	策	•••••	••••••	••••••	·· 129
	(1)	乳幼	児の	持徴と感染	と症対策	129						
	(2)	集団	におり	ける感染症	E予防の	具体例と	対策	129				
	3. 学	校保值	健安	全法と保	育所等に	こおける	感染症	対策 …		•••••	•••••	· - 133
	4. 感	染症	対策の	の実施体	钊			•••••		•••••		··· 134
	(1)	感染:	症に対	対する個丿	、記録	134						
	(2)	感染:	症発	生時の体制	ij 135							
	(3)	保育	所等I	職員の感染	k症予防	137						
第	7章	保育	にま	ける保保	建的対风	ភ្នំជ		•••••		•••••	•••••	138
	1. 保	健的	対応	と発達 …				•••••		•••••		·· 138
	(1)	1歳	未満	児の生活	138							
	(2)	1 •	2歳	児の対応	149							
	2. 個	別的智	配慮:	を要する	子ども~	への対応	•••••			•••••		··· 154
	(1)	腎疾.	患	154								
	(2)	心疾	患	154								
	(3)	アレ	ルギ	一疾患(気	〔管支喘	息,食物	アレル	ギーなと	· 1	55		
	(4)	障が	いの	ある子ども	の基本	的生活習	慣獲得	の援助	157			

第8章 健康および安全の管理の体制	161
1.子どもの既往歴や体質,流行する感染症などの把握	161
2. 保育所等の子どもの事故予防	162
(1) 保育中での事故予防は保育者の役割 162	
(2) 保育所等における安全な子どもの服装 162	
3. 保育所等における職員同士の連携	163
(1)保育所等の職員の連携 163	
(2) 保育における保健活動の計画および評価 163	
4. 家庭への支援,嘱託医との連携	165
(1) 家庭への支援―家庭への健康教育 165	
(2) 嘱託医との連携 166	
5. 特別な配慮を必要とする子どもの保育および関係機関との連携	167
6. 虐待の防止・発見と関係機関との連携	168
7. 小学校との連携	169
8. 地域との連携	169
参考文献	
さくいん	······ 173



1. 子どもの健康と安全

(1) 子どもの健康と安全をどうとらえるか

保育において最も重要なことは、生命の保障である。そのためには健康をどう保持していくかが重要になる。「健康」は心身の病気等がないことはもちろんであるが、それに加え、子どもは発育過程にあるので、どの発育段階にあり、その発育がどのように進んでいるのかをみていくこと、それを判断して身体、こころ、その両面から考えていかなければならない。さらに発育過程には個人差があることを考えに入れていくことが大切である。

子どもの健康と安全は、近年とくにゆとりをもち、かつ綿密な対応が求められる分野である。保育所等での保育は、子ども同士の集団で過ごしている時間が長い、子どもが起きて活動している時間の多くを保育所等で過ごしている等の特徴があり、家庭での育児とは異なった観点も必要である。一方、現代における家庭・家族の多様性は、健康・安全の分野においても、個別に対応・配慮していかなければならない面も生じている。

保育は、子どもの命に向き合いながら日々行われており、保育者など子どもに関わる人たちは、子どもの健康・安全についての基本の知識と技術を習得していくことは必須である。

子どもは、成長・発達の段階にあるということはいうまでもないだろう。「健康支援」や「安全確保」を行っていく場合でも、一人ひとりの発育状態を考えた対応が必要である。ここでは健康を大きくとらえ、子どもの安全を確保するという点を含めて考えてみたい。

2 第1章 保育における健康と安全

「健康」というと、病気ではないか、体調はどうか、こころの問題はどうか、などから考えがちである。「安全」という面からみると、自分のおかれた状態、行動など危険を察知するなどの力は、発達段階によって異なる。子どもが自ら的確な症状や状態を訴える、判断して対応・行動ができ、けがなどを未然に防ぐようになるまでは、子どもの周囲にいる多くの者の判断が重要になる。「子どもの健康支援」には、「事故防止」や「病気の予防」、「早期に異状に気づき対応する」、「環境整備」等が必然的に含まれてくる。

健康支援と安全管理に共通して必要なことは、成長・発達段階の把握である。 各器官系は、年齢とともにその働きは発達してくる。病気の予防、早期発見に 大きく役立つこともあり、成長・発達を確認しておくことは大切である。

成長・発達については、入園時を含めて年1~2回健康診査時を中心にチェックが行われる。そのほか日常の保育活動の中で適宜把握していくことも大切な保育者の役割である。市町村が実施している健康診査(診断)は専門家がそろっており、保護者が働いている場合には受診は難しい面もあるが、できる限り活用し、その結果の情報を共有することも大切である。

(2)「健康支援」について

健康を支援することについて大きく3つに分けて考えてみる。

第一は、通常の生活場面、保育場面での健康状態の把握である。これは健康 の維持、促進につながるとともに、次に述べる異状の早期発見・対応につなが る。登園時、通常の保育の場面、生活の場面で、健康観察を行う。

第二に、異状の早期発見と早期対応である。体調不良、病気の初期症状を可能な限り早く見つけることが大切である。乳幼児ではとくに病状が急激に悪化することも少なくなく、元気がない、あまり遊ばないなどのことがきっかけになり早期発見につながることもある。

第三に、病気の予防についてである。入園時を含め、感染症などの罹患歴、 予防接種歴を把握しておくことで、感染症の流行時の二次感染予防などにつな がる。これらを有効に活用することで、保育所等の中での感染症の広がりを小 さく留めていくためにも役に立つ。

(3) 「安全管理」について

子どもの健康支援のもう一つの課題は、不慮の事故を防止する、生活環境の 安全確保ということであり、これらには健康保持と同様なことがいえる。乳幼 児は、自分で危険であると察知する力が未熟であり、自ら危険を避けることは 難しい。子どもは身体的な特徴,各器官の形態や働きが成長・発達段階にある ことを知り、加えて判断能力、行動特性等もその発達段階によって異なること を認識しておく必要がある。安全を確保するためには、保育者は子どもがどの 成長・発達過程にあるかを常に念頭にいれ、保育をしていくことが求められる。

1)環境の整備

保育所等の建物、構造などを把握し、事故の発生しやすい場所をチェックし、 予防対策を行う。

2)発達特性と発生しやすい事故

発達.子どもの気質等を知っておくことが大切であると同時に.登園時にそ の日の子どもの状態を把握する。保護者からの情報を受け取り保育開始までに 分析し、必要に応じてスタッフ間で共有しておくなど、子どもの状態からいろ いろな情報を得ることができるので、登園時を含め保育中の行動、状態を把握 しておく。

2. 保育における健康支援の基本的な考え方

乳幼児期の子どもの健康状態は、その後の生涯の健康に大きく影響するとい われる。例えば、肥満はいつ頃から気をつけた方よいのだろうか。2歳を過ぎ 肥満の状態が続くことは、将来、生活習慣病等を発症するリスクが高いといわ れ、注意が必要であると考えられるようになってきている。肥満は単に食べ物 の過剰摂取と運動量の不足等の要因だけではなく良質な睡眠の不足も関係する ことがわかっている。まさに、乳幼児の健康を預かる者は、将来を考えた健康 支援が必要である。

健康支援は、そのときどきの状態を把握し対応することと、もう一方で長期 的にみて、その子どもの未来を考えての健康支援が求められている。それをふ まえ日々の、季節ごとの、年間の保育計画を立てていくことが必要である。

4 第1章 保育における健康と安全

乳幼児期は、生活リズム、睡眠覚醒リズムを生活習慣の一つとして確立していくことが望まれるが、夜間の時間帯を保護者とどのように過ごしているかが大きく関わってくる。以前よりは、そのことを意識する保護者も増えてはいるが十分とはいえない。いわゆる「早寝・早起き」「睡眠時間の確保」など、これは一例であり、健康支援に関しては、医学、科学は日進月歩である。情報の混乱は問題ではあるが、ある程度確立した内容のものは、専門家からの発信だけでなく、それを受けての保育所等からの発信は、これからも継続的に続けていく必要がある。

健康支援は、集団であっても、基本は個々の支援である。保育所等における 健康支援のポイントをまとめてみよう。

- ・一人一人の健康カルテを作成する。
- ・健康観察は重要であり、健康状態の把握、これは病気の早期発見ときには 重症度を把握できる大切なものである。
- ・子どもの病気の予防、事故防止には成長・発達の視点が欠かせない。
- ・子どもの健康は、その時々の健康だけでなく、将来の健康を見据え、計画 を立てていく。
- ・事故防止や感染症対応, 児童虐待防止のマニュアルの作成は重要であるが, 個々の事例を考え対応できるスキルが必要である。

以上のような健康支援を的確に行える保育者となるためには、保育者養成において、それぞれの項目において保育を視点に目標や成果として求められるものを示していくことが必要ではないだろうか。本書において、子どもの健康と安全について多くのことを学び取ってほしい。